

現場に学ぶ医療福祉論（第4回目）

2018/10/17 世界から注目される孤独を解消する「分身ロボット」

17S1121 森下裕子（看護師、今はフリーでときどき看護教育に携わる）

吉藤オリィ様へ

「OriHime とオリィさんのことを周囲の人にどうやって伝えるか…を考える」

本日は、ありがとうございました。

私は、残念ながら会場に行くことはできなかったのですが、それでも、オリィさんのカッコよさをしみじみと感じました。

以前、偶然にテレビでオリィさんを拝見したことがあります。わずかな時間しか見ることができなかったので、内容を十分に理解することができなかったのですが、なぜかとても印象に残っており、今回の授業でお会いできることを楽しみにしていました。

今日、あらためて「分身ロボット OriHime」のお話をきいて、どうして印象に残ったのかを考えました。

オリィさんの活動、語りに、常に「人が中心であること」を感じ、そのことと“ロボット”が私の中で一致せず、不思議な感覚になったのだと思いました。今日は、OriHime を目の前にして、あらためて「分身ロボット」のお話を聞きましたが、ロボットのお話を聞いた感じは全くありません。

人が生きていて一番うれしいことは、“人とかかわりの中にある”ことや、医療やテクノロジーの発達は“人のためにあること”など、これから生きていくうえで見失いたくないことを確認させて頂いた感覚です。

もう一つ、今日の授業で考えたのは、「自由に考えられる自分でありたい」ということです。「座布団に滑車をつけてほしい」と言われたおばあさんはとても素敵です。

「車いすは障害化する福祉機器」のお話はドキッとしました。オリィさんは、“こんなものがあってもいいじゃないか”って考える、とお話しされました。そんないくつものお話を聞いているうちに、「こういうものだ」と無意識に思ってしまった自分を感しました。時々、自分に、「本当にそうか？」と問いかけていきたいと思います。

オリィさんのご著書も読ませて頂きたくになりました。カフェにも行きたいです。

でも、まずは、周囲の人に「OriHime って知ってる？」からはじめて、自分のことばで OriHime とオリィさんのことを伝えられるようになりたいと思います。

寒さを感じる季節になってきました。どうぞどうぞ、お身体を大切になさってください。また、どこかにお会いしに行きます。

追伸

テーマと内容があまり一致していないのは自覚しています。本文を書きながら、周囲の人に話したくなり、「さて、どのように伝えよう」と考えはじめ、このテーマにしたいくなりました。